

第1回観光立市推進会議「グループディスカッション」での主な意見（要約）

【1班】

1. ここまで老朽化すると、もう修繕のレベルではない。観光利用なら、最低限綺麗であること。住民福祉目的なら、銭湯レベルに規模縮小し、移動の支援を。
2. 海水浴客も、サーファーも、温泉があることは絶対条件ではない。
3. 減った源泉は、足湯や農業利用等で活用を。
4. 集客力があるのは「野菜販売」。食事、足湯、いちご狩り等「複合型」で。子供が遊べることは大きな集客力。
5. 海の京都の認知度を活かし「海のレジャー」で。
6. 宿泊施設を誘致するより、周辺の宿と連携し相乗効果を。

（主な意見）

- ① 温泉は銭湯レベルで活気がない。観光客の目線で言うと、もうそのレベルではない。住民福祉目的なら規模縮小でいい。プールは子どもたちにとって大事な資産。もっと海と関わられるような施設にも変えて、今のニーズに合ったものにすべき。
- ② 市の3温泉施設の中では、宇川温泉よし野の里が素晴らしい。浅茂川温泉静の里は、海水浴客にとって海に近いところにあることは価値があるが、市内に7つの外湯があるのなら、温泉施設とは別の形にするのが良い。
- ③ 市内に綺麗な民間プールができたが、本施設は建物が古すぎる。八丁浜があり景色も良いが、サーファーなど若い人は、綺麗じゃないと嫌というのが一番。足湯で景色を眺めながらソフトクリームを楽しむような小さな規模にしたらどうか。
- ④ 観光客は、いい場所、綺麗な場所を訪れる。小天橋でもそうだが、サーファーや海水浴客はシャワーで良く、必ず温泉に行くというものではない。車で温泉に行く人にとって「近い」ことは絶対条件ではない。ここまで老朽化すると、修繕というレベルではない。
- ⑤ これだけ温泉が増えた中、税金で運営管理を続けるのは難しい。利用者や地域の要望をすべて聞くのではなく、行政はメリハリのある決断を。経ヶ岬灯台など、今一番、集客できる場所に目を向けないと魅力のないまちになる。説明すれば地域もわかってくれる。
- ⑥ 年券があったから地元利用があったのだろう。住民は「お金を払って風呂に入る」という意識がないので、憩いの場、銭湯レベルでいい。施設までの移動支援は充実すべき。
- ⑦ 経費的に、元通りに直して使おうというものではない。源泉湧出量も減少している。足湯か、熱源として農業利用（いちご狩り等）できるほどあれば良い。
- ⑧ 案内の際、お客様が一番おっしゃるのは「お土産を買うところが少ない」。南山城村の道の駅は食事と野菜購入で遠方から訪れる。食事、買い物、足湯、イチゴ狩りなど、複合

的でテーマパークのようなものを市内関係者で作るのが理想的。八丁浜やサッカー場もあるのに、温泉だけというのはもったいない、

- ⑨ 市内の道の駅の利用者からは「野菜を置いてない」という声をよく聞く。キヨリ谷テラスは、無農薬の野菜を買うだけのために他府県ナンバーが集まる。久美浜の「ひみか」も他府県ナンバーがどっさり野菜を買い集めて帰る。
- ⑩ 美味しいものがあっても発信力が弱い。海の京都の認知度を使い、「海の駅」という発信が良いのでは。あのロケーションを拠点に海のレジャーも楽しめるような施設に。
- ⑪ 子供たちが遊べる道の駅は、道の駅自体が目的地になっている。ウォータースライダーで海に飛び込むような子どもに斬新な記憶を残すと、大人になってから来てくれる。
- ⑫ インバウンドには着物。丹工のミュージアム構想は、着つけ、着物姿で撮影するロケ場所など、しっかりとやっていただきたい。絵付けの猫でさえフル回転。旅行する方はお金を使おうと思って来られる。遠慮せずに、価値あるものにはそれなりの金額で。
- ⑬ 大きな企業を引っ張ってくるのも重要。
- ⑭ 大事なのは誰が核となって運営するのか。変化を起こす若い人材や、色々と見えている「よそ者」を、地域が支えないといけない。移住者も浅茂川は多い。
- ⑮ 環境は絶対に離せない。人が集まる大きなキーワード。
- ⑯ 移動手段は大事。公共交通、ウーバーアプリ、ライドシェア。補助が終わったら終わるのではなく持続可能なシステムを。伊根との連携も必要。
- ⑰ ホテル誘致は、周辺の宿泊施設が反対するのではないか。浅茂川には良い旅館があるので、ここを利用したら割引になるなど、互いに連携できる形が良い。周辺の旅館の良さをキャッチし、連携し、協力もしてもらおう。

【2班】

1. 市民の利用が少ないなら、現状維持は考えない方がいい。同時に、今の施設のままなら、観光客も「また来たい」とは思わない。
2. 地域の（立地場所の）特徴をコンセプトとする、通年観光の拠点にすべき。
 - ① ジオパーク拠点施設（ただし、「漁港景観」がジオ的にはどうか。）
 - ② 全天候型人工サーフィン・センター（ぬる湯で可。温泉は住民も利用。）
 - ③ 遊覧船、釣り、遊漁船など、浅茂川漁港を活用した「海」体験施設
 - ④ 景色を眺め、ゆっくり過ごせる場所（アイスクリームやカフェなど）
 - ⑤ ランチ、泊食分離対応の食事処（地元食材が食べれる場所。）
 - ⑥ 地域特有のコンセプト＋海鮮BBQ
 - ⑦ 「長寿」をコンセプトにした施設
3. 温泉は、市内全施設共通で市民限定の特典を設け、ヘルスツーリズムなどを絡めた活性化策で利用率を上げる。プールは、子供たちのスイミング代替利用策を。
4. 軸足を住民・観光客どちらにおくか。住民利用（運営）の施設に観光客が訪れ、両者が交流できるような形が、観光客にとっては新鮮。
5. 解体だけで数億円かかる施設なら、民間は無償譲渡でも困る。民間需要を知るためにも、民間事業者へのヒアリングが必要。

（主な意見）

- ① ジオパークの大きな拠点施設がない。通年観光を目指すならジオパークは強み。海岸線をただ走るだけのジオではなく、複合的な機能を持つ拠点が必要。ただ、目の前が漁港なので、ジオパークの観点から言うと丹後の方がやりやすい。
- ② プールをアレンジし、京丹後のシンボル、通年観光の拠点として全天候型のサーフィンアクティビティセンターに。八丁浜のすぐそばに造る方法もあるが、新しく建てるならしない方がいい。大阪、神戸のサーファーにとって、距離は問題ない。
- ③ 市民の利用が少ないのなら、現状維持は考えない方がいい。新しいものに変えないと、今の施設では観光客がもう一度来たいと思えない。ヘリコプターの拠点ならジオパーク全体が見れるし、最近ではサウナ需要も高い。外国人が来ないと、日本人だけでは難しい。
- ④ 漁港がある立地なので、遊覧船や釣り体験ができる観光はどうか。浅茂川漁港は遊漁船も多い。海の体験として、ジオパークに触れることができ、人工サーフィンもできるような施設。
- ⑤ 地元の子供たちのスイミング代替施設があればいい。民間のプールの送迎は満杯なのか、観光客の温泉利用は夏が多いのか、あしぎぬ温泉などで代替できるのか、プール利用者の実人数はどの程度か。さらに、子供たちが芝生でサッカーできる場所もあそこだけ。

- ⑥ 住民か観光客かターゲットの整理が必要。地元の人が利用しているところに観光客も行き、触れ合い、文化が繋がる姿が良い。観光客だけの施設は観光客にとって新鮮ではない。京都市は小学校をホテルとして民間に売却する際、地域の方用に1部屋残している。
- ⑦ 京丹後には、夕日ヶ浦のブランコみたいに景色をゆっくり見てお茶できるところが少ない。「琵琶湖テラス」はカフェと景色だけで人気。食の拠点として、アイスクリームは通年型になる。野村牧場、そらなど、コーヒーショップに譲渡してカフェにするとか。
- ⑧ 東京では、イカを釣って食べられる居酒屋さんがある。プールが生け簀や養殖に活用ができないか。CAS冷凍センターを造って安定的に保管する方法もある。地の物を食べられる場所を探すのは凄く大変なこと。地の物が食べられることは1つの売りになる。
- ⑨ 情報センターでも、ランチ処をよく聞かれる。40人以上の団体は受入ができない。ホテルも人手不足でランチをしない。弁当を食べる場所もないのでバスの中で食べている。観光客が困ることなく地元の物を食べたい時に食べることのできる場所がほしい。
- ⑩ 今後さらに人手不足が深刻になる。お宿も1泊2食から1泊朝食になり、ゲストハウス利用も増える。泊食分離の人達が食事場所を探すことになる。
- ⑪ 自分で食材を選んで焼くような海鮮BBQは人気だが、食材プラス、ジオのような、その地域にしかないコンセプトを持たないと、是非行きたいとはならない。源泉湧出量も減ってきているし、そういう意味でも温泉でなくても良い。
- ⑫ 住民の健康観点なら、市内の全温泉施設共通の市民割などを設けたらどうか。単に無くすのではなく、ヘルスツーリズム等、他の温泉施設も含めた活性化策が必要。7つも温泉があるので全体の情報を整理し、市民が利用しやすい形にすべき。
- ⑬ 解体だけで数億かかるような施設を無償譲渡されても民間事業者は困るだろう。民間に活用需要があるか、民間事業者にヒアリングが必要。公共のプロジェクトが絡むなら、公益性は大事。
- ⑭ 人口減少進む中、人を呼ぶビジネスを回すなら、その場所の一番強いものをコンセプトにすることが重要。都会や海外から、わざわざそこへ行く地域独特の価値にフォーカス。京丹後にとって「長寿」は、伝説含め、科学的なエビデンスももつ地域の大きな特徴。

【3班】

1. 「雨の日用のプール」ならクアハウスがある。「砂を落とす目的」なら観光客とは言えない。観光施設ならば、アクティビティと食事の充実が必須。
2. ターゲットは市民か観光客か。観光客なら国内かインバウンドか。ただ、プールのもつ教育的価値はどうするか。
3. そこにあるもの、地域のストーリーが観光資源。漁港関係者も生業に課題感あり。百歳長寿を武器に、漁港の活性化とSDGsが叶う取組を。
4. 魚も野菜も地元の人が集まるところに観光客は集まる。歪んだ野菜、虫だらけの野菜は最強コンテンツ。
5. 源泉減少は温泉としては致命的だが、養殖、配湯、熱源、災害時の入浴など違う用途で活用できる。
6. 合併して20年。「6町同じものが必要」という考え方は見直す時期。

(主な意見)

- ① 建設当時の施設のデザイン（集客数、ターゲット、集客方法、レストラン、トレーニングの併設など）はどうだったのか。そこに立って、今のまま継続なのか、デザインし直すのか。民間施設も増えた中、規模縮小、用途変更もあるのかといった検討だと思う。
- ② 建設当時のデザインはあまりなかったと思う。少子高齢化でプールは減少したが、逆に温泉は一定、維持されているのでは。古くなり燃料代も高騰。これからは「新たに造ろう」だけでなく、「あるものを楽しんでもらう」という考え方も必要。
- ③ 峰山にプールが出来るまで子どもを通わせていた。なくなると教育面で網野の方は辛いのでは。観光的には、廃れており全然魅力的ではない。「雨の日用のプール」ならクアハウスがある。観光にはアクティビティと食事の充実が必要。
- ④ 地域、観光客、いずれのための施設なのか。観光で考えるにしても、地域に足りないピースなのか、橋立・城崎間でインバウンドを生む目的なのか。京丹後にしかない武器は何かなど優先順位もある。海岸景観というよりは漁港なので、漁業体験かなと思う。
- ⑤ 目的をはっきりさせるべきだが、源泉減少は温泉としては致命的。比率7対3ということだが常連感がとても強い。砂を落とすしに来る人は観光客と言えるのか。いずれにせよ、環境とバリアフリーへの配慮と災害時に活用できること。災害時のお風呂は凄く大事。
- ⑥ お婆ちゃんの弁当、夜だけのラーメン、手作りビザなど、あるがままの人、物、食べ物、自然が最高の観光資源。何もない農村に、暮らし、伝統食、非日常など目に見えないものを求めて人が訪れる時代。箱物より地域のストーリー。徹底して地域のものを。

- ⑦ 堤防を利用した魚釣りなど漁港活用が機能していない。ちゃんとお金をいただき掃除代に充てるなどSDGsの考え方を取入れるべき。京丹後は水産物の加工業者が皆無。漁港の市場付近で、観光業者も入れ、百歳長寿のまちとしてお年寄りの手を活かして。
- ⑧ ロケーションも波も良くサーファーが多い。緑風高校にサーフィンする者が多くいるが部活として学校は認めない。その環境の中でどう生きていくか、どう利用したいのか真剣に考えることが、将来に繋がっていく。
- ⑨ インバウンドが少ない理由の一つは交通の不便さ。釣り人が5～6時間かけて沖ノ島に行くように、琴引浜に台湾、香港の学生が来てくれるように、本当に行きたい場所なら来てくれる。1回来れば翌年も来る。移動時間すら楽しい体験になる。
- ⑩ 網野に魚を買いに行く場合、橋商店まで足を延ばす。主婦は、野菜だって転々と探す。温泉が無くなっても、きちちゃり一なみたいに素朴なものや海の物があれば、買物して遊んで帰るようになる。地元の人が集まる店には観光客も集まる。
- ⑪ 市がお金を出して観光施設を造らなくても、民間のそういうところを応援する方法もあるが、行政のコーディネート必要なのではないか。
- ⑫ 「地元の高齢者の楽しみなくすとは何事だ」とか、「6町同じものがないといけない」みたいな考え方もある。あつた方がいいに決まっているが、合併して20年経つ。現実的な数字を見て判断していく時期。
- ⑬ 農家と観光事業者、ロット差で野菜の需給が難しいが、作ることが目的という人もいる。歪んだキュウリ、土がついた大根だけど食べたら甘くて柔らかい。あつたりなかったりの野菜を無理せず飾ることなく提供する。そんな野菜なら、地元の人でも買いに行く。
- ⑭ 大阪で有機野菜を売ると、少々高くても、曲がっていても、虫食いで売れる。ブロッコリーに青虫がいれば「本物だ」と。これは丹後ならではの武器。本物を提供することこそ話題になる。
- ⑮ 浅茂川漁港の関係自身は、生業が順風満帆だと思っていない。何とかしたいという思いはあるが方法がわからない。高齢化もあり、遊漁船が増え、観光漁業的な考え方も出てきている。
- ⑯ 源泉が減っているが、温泉そのものは利用価値がある。魚を育てる、周辺の民宿に配る、建物や温室を温めるなど入浴以外に活用できる。
- ⑰ 新しい大きな施設というよりは、野菜や魚が集まる話題性のある市場にして、施設はその保存・保管庫みたいに使う。商圈が違うので、いろんなところの良い知恵を集めることが大事。